

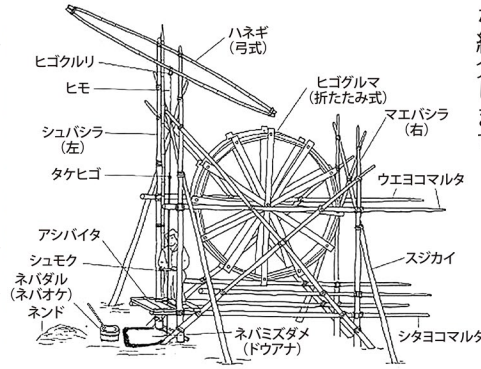
受け継ぎたい
国の重要無形民俗文化財指定

上総掘り

小学生向けの環境
教育用図書『なるほど
水と上総掘り』抜粋



重機も燃料も使わず、主に土に還る道具と人力のみで深井戸を掘削する工コな職人技。前回の歴史編につづき今回は技術編を紹介します。



地下にはたくさんさんの地下水があります。君津市や、そのまわりの市は、地下にある土の種類やかたむきのせいで、地面にほそい穴を深くあけていくと、そこからわき水のように水がふき出してくる不思議な場所です。君津市には水のわきだす井戸が1300箇所くらいあって、それは、上総掘りで掘られたものが多いのです。

上総掘りの特徴

- ① 竹ヒゴとヒゴグルマの利用
手に入れやすく加工が簡単で丈夫な竹製のヒゴを採用し、このヒゴの収納にヒゴグルマを用いたことにより、重い鉄管の上下運動に必要な労力を極端に少なくすることができました。(2〜3人の少人数で掘削が可能になりました)
- ② ハネギの利用
竹や丸太の弾力性を使って重い鉄管を少ない労力で上下できるようにしています。
- ③ 粘土(ネバ)水の利用
掘った穴が崩れるのを防いだり、摩擦で熱くなったノミを冷やすため粘土水を利用しました。
- ④ 掘りくずの回収に弁を利用
掘り進む道具の鉄管やくず回収用の吸子(すいこ)の内側に弁を付けてあり、作業効率を高めています。

竹ヒゴ(たけひご)

竹ヒゴとは、竹を縦に割って加工したもので、幅2cm、長さは8mくらいに切りそろえ、つないで使います。竹ヒゴは軽く、タテにかかる力にも強く、柔軟性もあり、加工もしやすい。この竹ヒゴの使用で掘る深さが一気に伸びました。200間(360m)以上の掘削も可能になったのです。



ネバ水(ねばみず)

ネバ水は、粘土と水を混ぜたドロ水のことです。掘った穴に粘土の壁をつくって、掘った穴が崩れてふさがらないようにするものです。

コシタ(こした)

コシタは、ホリテッカンの先に付けている弁のことで、掘りくずを上手につくって、掘った穴が掘れるようにするものです。

サキワ(さきわ)

サキワは、ホリテッカンの先に付いています。穴の底を突き崩す鉄製の刃です。この他に「イチモンジ」や「ナガワ」と呼ばれるものもあり、掘る地層によって使い分けます。

小学生向けの環境教育用図書『なるほど水と上総掘り』

市役所1階総合窓口
各行政センター
久留里城址資料館
1冊 600円

マンガになって読みやすい

君津市役所 環境保全課 環境施策係
君津市久保2-13-1 ☎0439(56)1243